

更に魅力的な学術研究大会の実現に向けた提案

秋山千亜紀

Suggestion for Attractive Annual Conference of GISA

Chiaki AKIYAMA

1. はじめに

GIS学会の学術研究大会（以下、大会という）は今年第25回を迎えた。昨年、GIS学会の持続性を高めるために山本佳世子先生の呼びかけで「若手会」が立ち上がり、著者も名を連ねている。学会の持続性を支える要素として、掲載論文の面白さや大会に行けばその分野の第一人者に直接会えるといった点が挙げられる。今回は初のセッションということで、GIS学会の大会をより魅力的なものにするにはどうすればよいか、国際学会など著者がこれまでに出席したほかの大会を参考にしながら、雑多なアイデアを提案したい。

2. GIS学会の大会の特徴

まず現状把握として大会の特徴をまとめた。

開催時期と会期：10月の週末の2日間

開催地：全国各地

出席者の所属：大学、民間企業、研究機関、関連省庁、地方自治体、高等学校ほか

発表形態：6～8会場で平行に、研究学術発表、特別セッション、ハンズオンセッション

最近の悩みとしては、複数の発表が同時進行しているため興味をもったタイトルの発表時間が重複する点である。とくに近年は大会会期中、タイムリーなシンポジウムが継ぎ目なく設定されていることが多く悩みは絶えない（発表数が多い

ことは学会の持続性を支える一つの要素だと考えられるので嬉しいことではあるのだが）。またポスター発表については、コアタイムが（実質的な）昼休みに設定されており、ポスターの前で議論を始めると、昼食を取らずに午後のセッションに参加するか、昼食をとって午後のセッションに遅れて参加するかになることがしばしばである。

3. 提案

前章で指摘した状況は、大会での発表数に対して会期が短すぎることが要因だと考えられ、第一に会期の延長を提案したい。現在、週末に設定されることが多いのでその前の金曜日開始にしてみてもいかがだろうか。そうすれば2会場ほど縮小でき、またポスターのコアタイムについても昼休みとは別に設定する余裕が生まれるのではないだろうか。さらに現在10分の休憩時間を15～20分ほどに延長できるのではないだろうか。国際学会ではセッションの合間に30分ほどのCoffee Breakが設定されており、セッションの後に議論ができるよう時間が確保されている点を参考にしたい。ほかにも大会の目玉企画として「今年・来年のGISキーワード」といったGIS界隈を総括する時間があると大会出席報告書を作成しやすく、企業等からの出席数を伸ばせるのではないだろうか。いずれにせよ大会参加の醍醐味はLive感を味わうことだと考える。大会中は時間に余裕をもって議論ができるような環境整備が大会をより魅力的にし、ひいては大会参加者の持続的な確保につながるものと期待する。

秋山千亜紀 〒305-8506 茨城県つくば市小野川16-2

国立研究開発法人国立環境研究所

Phone: 029-850-2245

E-mail: mizutani.chiaki@nies.go.jp